

令和元年度第2回春日井市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 令和元年7月25日(木曜日)10時00分～11時15分

2 開催場所 市役所第3委員会室

3 出席者

| | | |
|-------|-------------------------------|----------------------|
| 【会長】 | 中部大学 工学部都市建設工学科教授 | 磯部 友彦 |
| 【委員】 | 春日井市 市長 | 伊藤 太 (代理 前川 広) |
| | 名鉄バス株式会社 | |
| | 営業本部運行部運行課長 | 吉岡 実 |
| | 近鉄東美タクシー株式会社 | |
| | 運輸部長春日井営業所長 | 相川 敏行 |
| | 公益社団法人愛知県バス協会専務理事 | 小林 裕之 |
| | 愛知県タクシー協会 春日井支部長 | 奥村 薫績 |
| | 高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社 | 裏見 敏郎 |
| | 春日井市区長町内会長連合会 理事 | 足立 弘之 |
| | 春日井市民生委員児童委員協議会 会計 | 馬上 貴美子 |
| | 春日井市老人クラブ連合会 副会長 | 金田 辰男 |
| | 春日井商工会議所 副会頭 | 木野瀬 吉孝 |
| | 春日井市婦人会協議会 書記 | 伊藤 月美 |
| | 国土交通省中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官 | 上井 久仁彦 (代理 小川 賢二) |
| | 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事 | 熊谷 浩明 |
| | 愛知県都市整備局交通対策課 主幹 | 渡邊 重之 |
| | 春日井市建設部 道路課長 | 荻谷 健生 |
| 【事務局】 | 春日井市建設部兼まちづくり推進部 次長 | 堀尾 朋宏 |
| | 春日井市まちづくり推進部都市政策課 課長 | 森 浩之 |
| | 課長補佐 | 三浦 晶史 |
| | 課長補佐 | 松浦 武幸 |
| | 主査 | 花井 輝年 |
| | 主任 | 米山 創 |
| | ニュータウン創生課 | |

課長補佐 村上 貴幸
主査 津田 哲宏

4 議題

- (1) 協議事項 1 かすがいシティバスの契約更新について
- (2) 報告事項 1 春日井市地域公共交通網形成計画について
- (3) 報告事項 2 実証実験について
- (4) 報告事項 3 市内公共交通実績について

5 会議資料

- ・令和元年度第2回春日井市地域公共交通会議次第
- ・春日井市地域公共交通会議委員名簿
- ・資料 1 かすがいシティバスの契約更新について
- ・資料 2 春日井市地域公共交通網形成計画について
- ・資料 3 自動運転実証実験を含む新たなモビリティサービス実証実験
- ・資料 4 かすがいシティバス実証実験
- ・資料 5 市内公共交通実績

6 議事内容

- (1) 協議事項 1 かすがいシティバスの契約更新について

【米山主任】

資料 1 について、説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【渡邊委員】

この暫定2年間で行う様々な実証実験の中に、料金等に関する実証実験を行うとあったが、どのような実証実験を考えているか。

【松浦補佐】

これまで本会議で、かすがいシティバスの東環状線は長大路線であることを指摘されてきた。その対策として、長大路線の分割などが想定される。分割された場合に、今まで乗り継ぎがいらなかった利用者に乗り継ぎが必要になる場合も想定し、期間乗り放題券などの実験方法について、本会議で意見を伺いながら検討したい。

【上井委員（代理 小川氏）】

かすがいシティバスの変更点で、バス停を新設している一方で、ダイヤの改正を行い定時制の確保と労働環境の改善を図るとなっているが、どのような点で運転手の労働環境の改善が図られているのか。

【米山主任】

運行している事業者と調整を行い、実際の運行に併せたダイヤの見直しを行うことで、運転手の休憩時間の確保を行った。

【上井委員（代理 小川氏）】

事業者と調整しているのであれば心配はしてないが、長大路線の1回の運行が非常に長いと思う。

運転手の交代はしているのか。

【吉岡委員】

このダイヤは、こちらからも市に提案した。

実際に、東環状線が2時間を超える長大路線になるため、高蔵寺駅で運転手の交代をさせながら、春日井市民病院のインターバルを長くした。また、各区間の時間調整も見直したことで、定時発車、運転手の確実な休憩時間の確保に努めた。

【磯部会長】

かすがいシティバスの契約更新については、原案のまま可決としてよいか。

【一同】

異議なし。

(2) 報告事項1 春日井市地域公共交通網形成計画について

【米山主任】

資料2について、説明を行った。

【磯部会長】

この計画は鉄道、路線バス、タクシーなど交通事業者の役割を明確化し、中長期的な交通網を検討するための計画である。

委員に意見を求めた。

【渡邊委員】

最近が高齢者の交通事故も非常に多く、運転免許証を返納する動きもある。

運転免許証を返納した人の移動手段の確保というのが、高齢化が進む中での直近の課題となり、地域内・個別輸送の検討が重要となる。

【松浦補佐】

市に届けられている声も、同じものだと捉えている。

特に路線バス、サンマルシェ循環バス、かすがいシティバスなどのバス網から漏れている地域があるため、地域の方々や交通事業者と何か新しい手段などをこの会議に諮りながら考える必要がある。

【磯部会長】

本日の資料以外にも、実際に困っている人がどのようにしたら生活がうまくいくか考えて計画の作成に併せデータを集めてほしい。

【金田委員】

老人クラブが参加する市行事の大半が市役所で行われている。また、市の施設を使う催しが年に何回もある。

老人クラブとしても、マイカーの運転は批判されるため、路線バスやかすがいシティバスの利用を推奨しているが、時間がかかり利用しづらい。地域の方々や老人クラブの人からの意見では、市の行事に合わせた時間での運行を希望している。

資料2の2ページの「高齢化に伴うニーズの多様化」は運転免許の返納や交通事故などの背景以外にも、いくつもの問題があるため、地域の意見を掘り下げてもらいたい。

【松浦補佐】

2年間の暫定期間後のかすがいシティバスの見直しに併せ、いただいた意見を参考に検討したい。

【磯部会長】

鉄道事業者と連絡調整をしてほしい。

近隣市町も課題があると思うので、お互いの状況を確認するなど接点を持ってほしい。

【上井委員（代理 小川氏）】

資料2の15ページ「計画検討の基本的な考え方」にある広域・大量輸送から地域内・個別輸送は鉄道や路線バス、タクシーなど様々な事業者がいるため、役割分担のバランスが非常に重要である。

【磯部会長】

事務局に意見を求めた。

【松浦補佐】

具体的な新しい交通手段の検討は、地域の要望を受けることが必要であると考えているため、本会議に意見を聞きながら、取り組みを始めたいと考えている。

【磯部会長】

事務局は本日の意見を受け取り、検討してほしい。

(3) 報告事項2 実証実験について

【磯部会長】

こちらは、高蔵寺ニュータウン内の実証実験と前回会議で議決したかすがいシティバスの実証実験の2つの報告である。

高蔵寺ニュータウンの実証実験について、説明を求めた。

【津田主査】

資料3について、説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【木野瀬委員】

モニターの募集はどのように行ったのか。

【村上補佐】

ホームページ、広報に掲載を行い募集した。また、老人クラブや地区社会福祉協議会の会に参加し、登録のお願いをした。

【木野瀬委員】

地域の方のなじみが無く、盛り上がり欠けるように感じる。

利用頻度が芳しくないように感じるため、町内会や老人クラブを盛り上げて楽しみながら実証実験を行うべきだと思う。

【磯部会長】

委員の意見を参考にして進めてほしい。

高蔵寺ニュータウンで行っている実証実験やバス専用レーンなどは、高蔵寺リ・ニュータウン計画に基づき、進めている事業である。

地域の住民が参加しやすい形で、進めてほしい。

かすがいシティバスの実証実験について説明を求めた。

【米山主任】

資料4について、説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めたが意見がなかった。

(4) 報告事項3 市内公共交通実績について

【米山主任】

資料5について、説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【吉岡委員】

この春日井市のエリア内では、高蔵寺ニュータウンのお客様が非常に多く、通勤で使う利用者が減少していることが大きく影響して、減少傾向となっている。

弊社全体では、下げ止まり傾向と推測しているが、春日井市については、今後も通勤利用者の減少により、更に減少を推測している。

【奥村委員】

労働力不足と働き方改革により1人あたりの稼働時間が減ったため、タクシー業者全体としても微減である。

その中で、高蔵寺ニュータウンで実験している乗り合いタクシーなどに協力し、乗り合い効率向上の努力を行っている。

地域によっては、タクシーが稼働できていない場所もあるため、かすがいシティバスに助けられている状況であると思う。

【上井委員（代理 小川氏）】

かすがいシティバスの路線毎の数値はあるか。

【松浦補佐】

1人あたりの市負担額の少ない西環状線は、利用者が増加傾向にある。

北部線、南部線も利用者の増加傾向にある。

東環状線はこれまで、増加傾向であったが平成30年度に初めて、減少に転じた。また、この路線は非常に長いこともあり、4台の車両を使用し、非常に経費がかかっている状況であるが、かすがいシティバスの全利用者約32万人の内約20万6千人が東環状線、西環状線は約6万1千人、南部線は約3万8千人、北部線は約1万8千人の利用者がいる。

このような、かすがいシティバスなどの現状は整理し、また別途報告する。

【磯部会長】

全体の数値と個別の数値をそれぞれ分析する必要があると思う。

【木野瀬委員】

資料5の2ページを見ていると北部線の数値は他と比べ異常に感じる。

このような中で、バス路線を維持すべきかどうか議論を始める時期ではないか。

タクシーなどの他の手段の方が効果的かもしれないので、引き続き検討してほしい。

【磯部会長】

かすがいシティバスの各路線を見るとかなり迂回する路線になっている。

各地域を回った方が良いのか、それとも目的地まで早く到着した方が良いのか、検討する必要がある。

これから検討を進めるためにも、様々なデータを見ることでわかることもあるので、準備してほしい。また、高齢者の運転の話もあるので、マイカーの使用割合など可能であれば準備してほしい。

上記のとおり令和元年度第2回春日井市地域公共交通会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名及び押印する。

令和元年8月22日

会 長 磯部 友彦

署名人 木野瀬 吉孝